

その1 問題提起

河川とどのように向き合ってきたか 日本の文化的DNAの源流を探る

- 水を資源化し管理するのは土木技術である。
- 土木(Civil Engineering)とは文明の基盤を構築するための工学。
- 治水・灌漑・道路・港湾・鉄道・空港・上下水・電力・通信など、明治以降の欧米からの近代技術と考えられがちである。
- 土木の語彙が日本にない古墳時代(5C)に世界最大級の墳墓・大仙陵古墳(仁徳天皇陵)を土木技術(盛土)で完成させた。
- さらに大仙陵古墳等は地震の多いわが国においても現代まで1600年間、崩れることなくその威容を保っているものが多い。
- 古代の人は、いかにしてこの技術を手に入れたのか。
- 古代より継承されてきた日本独自の治水・灌漑等の技術やそれを支える理念に注目されることは少ない。
- 土木の語源は淮南子の「築土構木」を由来とする(土木学会関東支部HP)
- 淮南子は雑家といわれ、儒教だけでなく様々な学問をまとめたもので、特に老荘思想の影響を受けている。

その2 課題解決に向けたアプローチ

日本書紀等に古代土木の知見を探索する

日本最初の勅選国史「日本書紀」は前出の淮南子から「古天地未剖、陰陽不分」を冒頭に引用している。これは淮南子思想と共に技術が導入された可能性を示唆している。

①記紀作成時代の芸術

日本書紀編纂と同時期の正倉院御物を通じ、当時の人々の「聖なる空間」と老荘思想の意味するものを絵画により確認する。

②宮都の名称分析

記紀が編纂された時代、「聖なる空間」である宮都の名称から当時の人々が何を美称としていたかを検討する

③土木工事検索

「日本書紀」に記述される土木事業によって当時の<水管理>の土木の技術の存在を浮かびあがらせることを目標とする。

②宮都の名称分析

宮都の名称は後世の創作と想定される一方で、日本書紀編纂者が天皇の住処を「聖なる空間」として賞する美称でもある。

| | 天皇 | 延喜式(諸陵寮) | 古事記 | 日本書紀 |
|----|----|----------|------------------|-------------------------|
| 1 | 神武 | 橿原宮 | 畝火之白橿原之宮 | 天皇即帝位於橿原宮。 |
| 2 | 綏靖 | 葛城高丘宮 | 葛城之高岡宮 | 都葛城。是謂高丘宮。 |
| 3 | 安寧 | 片塩浮穴宮 | 片塩浮穴宮 | 遷都於片塩。是謂浮穴宮。 |
| 4 | 懿徳 | 輕曲峽宮 | 輕之境原宮 | 遷都於輕地。是謂曲峽宮。 |
| 5 | 孝昭 | 掖上池心宮 | 葛城之掖上宮 | 遷都於掖上。是謂池心宮。 |
| 6 | 孝安 | 室秋津島宮 | 葛城室之秋津嶋宮 | 遷都於室地。是謂秋津島宮。 |
| 7 | 孝靈 | 黒田廬戸宮 | 黒田廬戸宮 | 皇太子遷都於黒田。是謂廬戸宮。 |
| 8 | 孝元 | 輕境原宮 | 輕之境原宮 | 遷都於輕地。是謂境原宮。 |
| 9 | 開化 | 春日率川宮 | 春日之伊耶河宮 | 遷都于春日之地。是謂率川宮。 |
| 10 | 崇神 | 磯城瑞籬宮 | 師木水垣宮 | 遷都於磯城。是謂瑞籬宮。 |
| 11 | 垂仁 | 纏向珠城宮 | 師木玉垣宮 | 更都於纏向。是謂珠城宮也。 |
| 12 | 景行 | 纏向日代宮 | 纏向日代之宮 | 即更都於纏向。是謂日代宮。 |
| 13 | 成務 | 志賀高穴穗宮 | 近淡海之志賀高穴穗宮 | なし |
| 14 | 仲哀 | 穴門豊浦宮 | 穴門之豊浦宮 筑紫詞志比宮 | 興宮室于穴門而居之。是穴門豊浦宮。 |
| 15 | 応神 | 輕島明宮 | 輕島之明宮 | なし。「明宮」で死去。 |
| 16 | 仁徳 | 難波高津宮 | 難波之高津宮 | 都難波。是謂高津宮。 |
| 17 | 履中 | 磐余稚椋宮 | 伊波礼之若椋宮 | 皇太子即位於磐余稚椋宮。 |
| 18 | 反正 | 丹比紫籬宮 | 多治比之紫垣宮 | 都於河内丹比。是謂紫籬宮。 |
| 19 | 允恭 | 遠飛鳥宮 | 遠飛鳥宮 | なし |
| 20 | 安康 | 石上穴穗宮 | 石上之穴穗宮 | 即遷都于石上。是謂穴穗宮。 |
| 21 | 雄略 | 泊瀬朝倉宮 | 長谷朝倉宮 | 天皇命有司設壇於泊瀬朝倉。即天皇位。遂定宮焉。 |
| 22 | 清寧 | 磐余麩粟宮 | 伊波礼之麩粟宮 | 命有司設壇於磐余麩粟。即天皇位。遂定宮焉。 |

記紀では宮都の称号には土木に関連する用語が多様される

- 神武以降、久史八代も含めここに記されてる宮都の称号は天乎時代の人々が天皇宮=聖なる空間として示した名称である。当時の人々が何を良きこと、美しいこととしたかを「地名」として表現している。
- ①で検証した神仏思想であらわされる「山・峽・嶋」と共に「浦・津・磯」など、日本庭園の表現で多用される景観を数多く含んでいる。
- 同時にここには、土木で取り扱う「石・磐・木」や土木工事内容である「穴・島」など土木工事の内容も数多く含まれている。
- 清寧までの22代中15の宮都が土木に関連する語彙が使用されている。

③土木工事検索

日本書紀を堤という語彙で検索すると6つがヒットする

- 万葉仮名として歌や地名で使われた場合を除く
- 景行天皇 年秋九月、造坂手池、即竹雨其堤上。令諸國興田部屯倉
 - 仁徳天皇 又將北河之滂、以築茨田堤、是時、有兩處之築而乃壞之難塞
 - 孝徳天皇 可築堤地、可穿溝所、可壅田間、均給使造
 - 天智天皇 又於筑紫築大堤野水、名曰水城
- 筑紫で築いたのは国防上の堤である。景行・仁徳・孝徳の3つは農業用水確保のために築堤作業が明記されている。

結論

- 大陸から日本への思想哲学の影響は仏教が重視されるが淮南子の老荘思想の影響も無視できない。大仙陵古墳(仁徳天皇陵)の存在は日本の土木技術(築土構木)が高度だったことを立証するものである。
- 日本の古代・宮都は歴史哲学者・エリアーズが著作で述べるように「聖なる空間」を建造するということを目指し、岩や水などを象徴するシンボリズムでまとめられている。一方で巨大な神殿を建造するというより、現在の日本庭園をイメージする「津・磯・嶋」などで敬称として利用されている。
- 弥生末期から天乎までの400年ほどの期間に人口が大きく伸びているが、新田開発の成功が寄与するものと推定される。書紀の仁徳天皇記の茨田堤のくだりは元国交省河川局長・尾田米草氏が著作で詳述しているが「土木事業による国土開発」を示す事例である。
- これらは淮南子に示された「築土構木」の思想が都市と新田の開発事業を通じて、日本の国の始まりに寄与したことを示している

紫檀木画槽琵琶

山水花虫背円鏡(山水模様の鏡)

①記紀作成時代の芸術表現



日本書紀と同時期に中国からもたらされた正倉院宝物
これらから当時の人々の憧れの景観が伝わってくる

日本書紀「孝徳天皇」記に
霊臺と園を理想郷として天皇が次のように語っている。
「武王(中国の伝説の帝)に賢者が園(理想の庭園)に霊臺(神の御霊を祀る場所)を建設するように進言した。民衆をよく見守ってうまく束ねて行くにはこのような祀りが大切だ。」(経営の語源)
庭園工事とは土木技術を利用した芸術空間である

